
嬉野日記date5/14

ハルメク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嬉野日記date5／14

【Nコード】

N5831A

【作者名】

ハルメク

【あらすじ】

ユウジンと嬉野のあの日。放課後の教室にて

「きみは主人公になりそこなった
はぐれものさ。」

これは僕がまだ人と話しを交えることが出来るほどに正常だった
頃にたった一人のユウジンから言われた言葉だ。

意味を理解するのに20秒ぐらいかかったと思う。それほどにこ
の言葉は僕にとって意味が深かったのかもしれない。

「主人公」

という創作物上の役名を僕自身が意識していたからだ。

「きみは人にやさしく、物しずか
で何にでもいっしょうけんめい
になれる。勉強もそこそこできる。
しかし運動が苦手。体育の評価は
ひくい。まるで漫画の主人公のよ
うだろう」

ユウジンが言うことに僕は同意できた。それらは間違いなく僕の
内にある不動の気質だからだ。それらは僕の中にある規制のように
働いて僕をそういう人間にしてしまっていた。

しかしそれは弊害を伴った。

「しかしきみは、ニンゲンという
モノが嫌いだった。だから主人

公になれない。だから主人公ではなくはぐれもののなのさ」

ユウジンはそれで話を結び静かになり二度と口を開くことはなかった。

僕はどうしたらいいのか解らずにあの時の放課後の教室で椅子に座ったまま中空をただぼんやりと見つめていた。

ユウジンはその半年後に死んだ。首吊りだった。

――――

「あいつはなぜ自殺したかのかを聞くのは野暮だ。Eは死にたがりだった。ただそれだけ」

嬉野はぼんやりとした目をしていた。

「たった一人の友達だった。たった一人の理解者だった。たった一つの命なのに死んでしまった」

嬉野は泣きたい気分になった。

（後書き）

何処まで続くのか

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5831a/>

嬉野日記date5/14

2010年11月6日01時34分発行